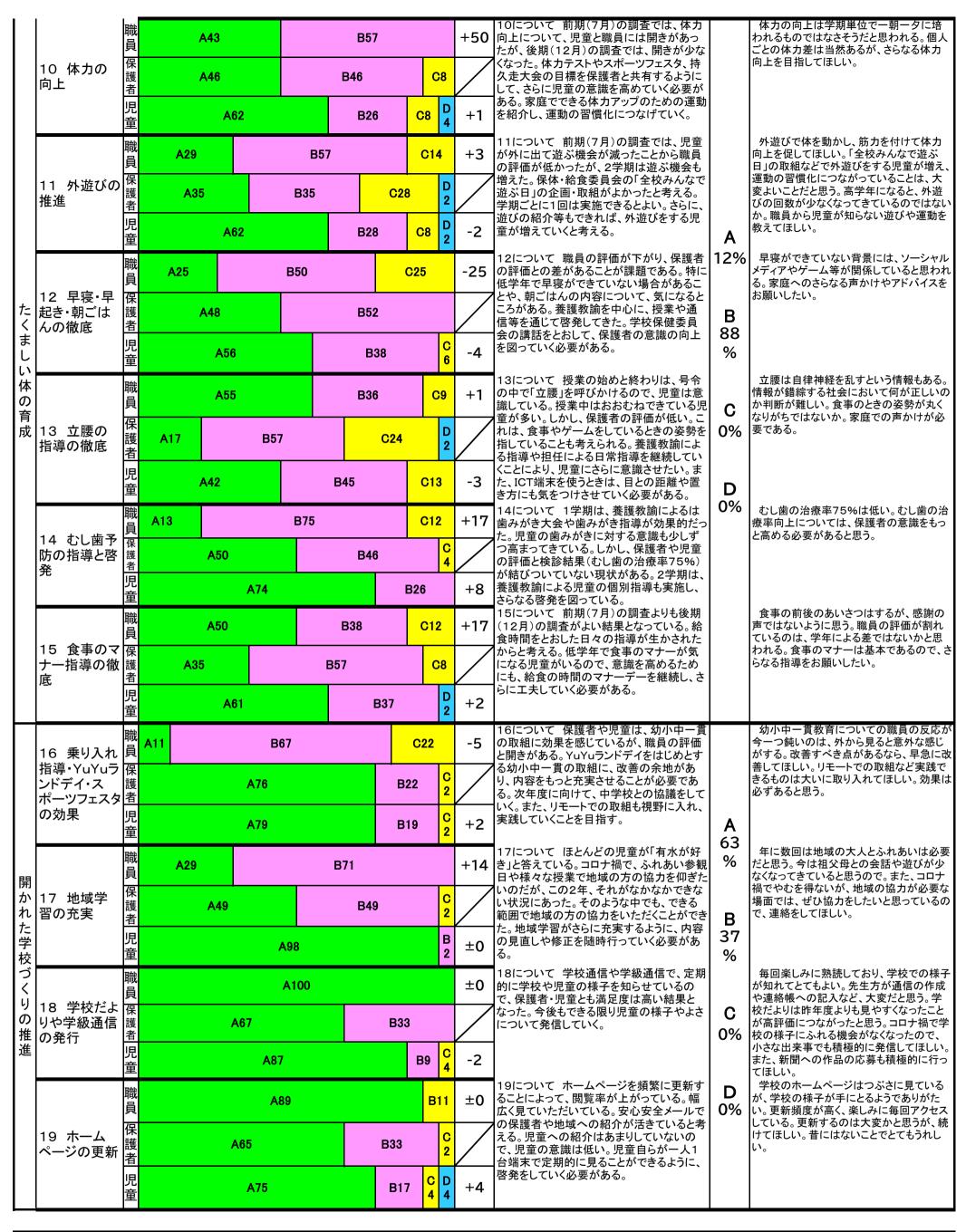
## 令和3年度 都城市立有水小学校 学校自己評価・学校関係者評価 評価書

本年度は、7月に前期学校自己評価を、12月に後期学校自己評価を行った。この評価書の帯グラフは、後期学校自己評価の結果である。前期と後期の自己評価 の比較は、A(とてもよい)とB(よい)をたした結果が、何パーセント変化したかを比較して記述している。ちなみに、保護者の調査は後期(12月)のみ実施。

評価方法~4段階(A:期待以上 B:期待どおり C:期待を下回る D:改善を要する) 〉

	く 評価方法~4段階(A:期待以上 B:期待どおり C:期待を下回。 アンケート調査結果				る D:改善を要する) 〉 学校自己評価(校長)		学校関係者評価(学校運営協議会)			
	具 体 的 取 組 事 項	具体的 ■ A…とてもよい ■ B…よい					評価			
	(単位は%)				7月と 比べて		評価	評価内容		
確	1 授業改善	職員 保護者	A9 B91  A65 B35		±0	1について 職員全員が研究授業を行ったり、授業に関する情報交換を行ったりして、日々の授業改善に取り組んできた。これからも「授業改善の4+4のチェックポイント」を職員が意識し、それを活かした授業改善に		職員の努力によって、いろいろなことが改善されていて、それが児童の学力向上につながっているのがうかがえる。職員の取組や工夫が高評価に表れている。少人数の特徴を生かしきめ細やかな全員が参加する授		
							取り組むことや、ふだんから互いの授業を参 観できるようにしていくことが、さらに授業改 善につながると考える。		業づくりを今後も取り組んでもらいたい。保 護者や児童は授業改善を実感している反 面、職員の高評価が少ないのが気になる。	
		児童	A64	B28	8 8	±0	2について 本年度から導入された一人1台		避けては通れないICT活用も評価は上々	
	2 ICT活用	職員保	A27	B64	C9	+21	のタブレット端末を、学年の発達の段階や学習内容に応じて、学習を進めるための道具 (ツール)として活用してきた。児童の活用能力も伸びてきており、学習意欲の向上にもつ		ですばらしい。2年生が町探検の際、タブレット持参で活用していたことに感動した。 活用のためのルールが活用能力に追いつくように重点的に教えてもらいたい。2~3年	
		保護者	A31	B60	C D 2		ながっている。活用のためのルールを作成し、児童といっしょに確認したことで、全学年の指導が統一されたことは、さらなる活用に		後の活用能力の向上に期待したい。	
		児 童	A66	В30	C 4	+2	つながると考える。参観日等で保護者に様子を見ていただく機会を増やしていきたい。	<b>A</b> 25		
	3 定着のた めのくり返し 指導	職 員 保	A75 B25		B25	±0	まってくり返し指導に取り組んできたので、 時代、子どもの学習内容が少しずつ定着してきている。2学 レットを使ったド		タブレットを利用した授業や指導は、今の時代、子どものうちから重要だと感じた。タブレットを使ったドリルはとてもよい。できれ	
		護 者	A52	B44	C 4		期からは、タブレット端末を使ったドリル 「キュビナ」が試験的に導入され、大変効果 的だった。一人一人の理解に応じた内容を	B 75	ば、家庭でも活用できるようにすると楽しく学 べると思う。	
		児 童	A54	B42	C 4	±Ο	選択してくれるので、ぜひ次年度も導入していきたい。	%	子どもと共に、それ以上に、親が必死に	
	4 家庭学習 の啓発	職員	A25	B63	C12	+5	4について 機会あるごとに、保護者や児童 に話をしてきたことで、家庭学習ガイドの活 用が図られるようになった。計算読み声の取 組が効果的で、算数の学力向上につながっ	С	すどもと共に、それ以上に、親が必死になって家庭学習に取り組んでいる。保護者の評価が高くなってきたように思う。学校側のよびかけを評価する。	
		保護者	A50	B46	C 4		た。さらなる向上をめざして、算数大会への 意識を高めていく必要がある。児童一人一 人が家庭学習ができるようになるために、す る順番を決めさせるなど、家庭学習のルー	0%	0000 0 17 E 11 mm 7 0 8	
		児 童	A52	B42	C 6	+4	った。 ティンを確立していくようアドバイスしていく 必要がある。	D 0%		
	5 読書の推 進	職員 保護者	A57 B43			±0	開を12月で達成することができた。図書館 がっけポーターの先生や図書委員会の児童を 成し	読書意欲は指導により如実に成果が上 がっているようである。早期に5000冊を達成したことがすばらしい。図書の本の貸し出		
			A20 B50 C		28 D 2		/ 果が、児童の読書意欲につながっている。 る。その知識を家 今後も、いろいろな種類の本を読み、読書の しかけていたことも		しは、授業で習う以外の知識も多く得ている。その知識を家族に質問やクイズとして話しかけていたこともよいと思った。学校の図書館だけでなく、都城市にはりっぱな図書館	
		児 童	A58	B21	C15 D 6	+9	組等を行うなどの工夫が必要である。		があるので、積極的な利用を呼びかけてほ しい。	
	6 家読の推 進	職員	A85		B15	+14	6について 前期(7月)の調査では、学校で借りた本を家に持ち帰って読まない児童も多かったが、回数を重ねるごとに、家で本を		家読の保護者の評価がもう一歩の気がする。家読、テレビ、ゲーム・・・、子どもたちはやることが多く忙しそうだが、読書も好きで、またまなの中ではなる。	
		保護者	A35	B52	C13		読む児童が増えてきた。家読の意欲も高まり習慣になってきている。今後は、保護者に家庭で声かけをしていただくようお願いしな		読んだ本の内容を紹介してくれることも多い。	
		児 童	A68	B30	C 2	+9	がら、家読の推進を図りたい。			
	7 あいさつ・ 履き物なら ベ・整理整頓	職員	A60	B40	)	±0	7について 継続的な指導により、あいさつ・履き物ならべ・整理整頓に対する児童の意識も高まり、どれもよくなってきている。今後も継続指導していくことに加えて、委員会活		あいさつ・履き物並べ等の細かなことをくり返し学んで自分のものとして生活習慣を確立し、人間としてすべき心を形成の一助になるとよい。児童の意識向上が目に見えてき	
		保護者	A22 B6	3	C15		動を充実させて児童どうしで呼びかけるなど、児童の自主的な活動を啓発し、さらに意識を高めて習慣化を図っていく。		ていることは評価できる。朝の見守りで「ありがとうございました」と深く礼をすることができるようになり、我々も元気になっている。マスクをしているので、あいさつの声が大きく	
		児 童	A62	B36	C 2	+6		%	聞こえにくい。校外でのあいさつがもう少しである。	
な心の育成	8 道徳科の 指導の工夫改 善	職員	B100	)		+14	8について どの学年も、ワークシートの活 用が効果的だった。ワークシートを実態に合 わせて修正することにより、活用を図ってい	B 37	学んだことは実行できていると思う。家庭 の会話の中でも報告しているようである。	
		保護者	A41	B55	C 4		く。さらに、道徳のワークシートをファイリング していくことで、ふり返りを充実させ、日常生 活の中で実行につながるようにしていく。ま	%		
		児 童	A72	B2	24 C 4	+4	た、ファイリングしたワークシートは保護者に 目を通してもらうようにしていきたい。	С		
	9 心のアン ケート	職員	A86		B14	±0	9について 前期(7月)の調査を受け、これまで低学年は易しい内容のアンケートだったものを全校統一にした。低学年の児童も真剣に考えてアンケートに答えていた。ほとんどの児童は毎日楽しく学校に登校していると答えている。アンケートには書いていないトラブル等もあるので、定期の教育相談や、毎日の声かけなどから話をじっくり聞き、早 0% 心のアンにはまいていた。    「公のアンに発表しているとは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、これでは、これ	00/	心のアンケートは大変な高評価で興味深い結果になっている。児童が毎日楽しく学校に登校しているので安心している。先生方に感謝している。授業も大事だが、学校生活を	
		保護者	A85		B15			楽しく過ごしていることが大事である。		
		児 童	A89		B11	±0	めの対応をしていく必要がある。幼稚園や 児童クラブの先生とも連携していく必要があ る。			



1 「確かな学力の向上」については、今後は、ICTの活用と家庭学習の充実を工夫改善し、児童や保護者の意識を高めるようなのアプローチの在り方についての協議を行い、保護者との連携を図りながら児童の学力向上に目指していく。また、少人数のよさを生かし、児童一人一人に合った指導方法について研究を深め、児童の学力向上につながる授業改善を進めていく。さらに、児童の読解力や表現力を高めるための読書の質を高めていく。

学校関係者 評価を踏ま えた今後の 方策 2 「豊かな心の育成」については、ファイリングすることで振り返りを充実させ、児童の日常的な実践を目指す道徳科の在り方を推進していく。また、あいさつ・履き物並べ・整理整頓を始めとする基本的な生活習慣について、児童の自主的な活動の啓発を図ることで意識をさらに高め、習慣化につなげていく。

3 「たくましい体の育成」については、コロナ禍を乗り切るための感染防止対策の習慣化を図ることや、自分の体や健康についての意識を高める保健指導や体力向上のための取組を推進していく。家庭との連携に重点をおき、自分で健康管理ができる児童の育成に努める。

4 「開かれた学校づくりの推進」については、より効果的な小中一貫教育の取組を目指し、小中で改善策を早急に協議し、実践していく。また、児童がこれからも「ふるさと有水」を愛するような取組を保護者や地域に協力を仰ぎながら行っていく。さらに、新聞・テレビなどのメディアや学校通信・学級通信、ホームページ等を活用して学校からの情報発信を積極的に行い、児童の自信とやる気と誇りの育成に努めていく。